

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|--|
| 事業所番号 | 2277102576 | | |
| 法人名 | 有限会社 ハピネス | | |
| 事業所名 | グループホーム ひまわり | | |
| 所在地 | 静岡県浜松市東区中野町4258 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年1月7日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人静岡県介護福祉士会 | | |
| 所在地 | 静岡県静岡市葵区中町24-2 若杉ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年1月24日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは「利用者主体」の姿勢を基本とし、一人ひとりの心に寄り添い日常生活の中で喜怒哀楽と一緒に分かり合える関係づくりに努めています。建物は木造作りとなっており、陽の光を多く感じ暖かみのある空間を作っています。「個を尊重し生きがいある安心した暮らし」の理念を実現できるよう職員・家族とよく話をしながら笑顔で生活できるようケアの実践に取り組んでいます。地域交流にも積極的に参加しており地域の中で必要とされる施設になるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年7年目を迎えるホームは、田畑に囲まれたのどかな地域に位置しています。地域との関係も良好で、基盤作りもできており、すんなり馴染んでいる様子うかがえます。職員の採用も地域からの採用を心がけ、地域と共に歩む姿勢が見られます。スタッフはケアの外に地域密着推進委員として、情報収集や調整に努め、日々の活動や役割をケアにも活かしています。自治会からの信頼は厚く、支えあい、協力し合う関係が築かれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「個を尊重し生きがいある安心した暮らし」を理念に掲げ理念の実現に取り組んでいる。 | 設立時の「個を尊重し生きがいある安心した暮らし」を理念に掲げ、利用者の呼び名やできることなど、個人カルテで共有し統一を図っている。研修も行われ実現に取り組んでいる。 | 大切にされている理念を今以上に実践できるよう、現在の取り組みを具体化した行動指針等の検討、作成を期待します。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入し、地域行事に積極的に参加している。お祭りの盆踊り場所として駐車場を利用していただいたり近所の方から野菜を譲っていただくなど交流を行っている。 | 地域の一員として自治会・中野町を考える会に加入。回覧板は利用者が職員と一緒に受け渡しを行っている。盆踊りの際は、駐車場を提供し、利用者も参加。会の種蒔き時は職員が参加。会長の協力も多大で、近隣とも良好な関係にあり、情報収集も行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 小学生の福祉体験学習や支援学級との交流を行っている。24時間職員が在中していることもあり「かんがるーの家」として看板を掲げている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1度開催している。自治会長、入居者家族、市及び包括支援センター職員、ホーム職員で運営状況の報告や入居者の生活向上に向けた話し合い、災害時への協力に向けた話し合いを行っている。 | 会議には市、関係機関、自治会、家族等が参加。利用者本人の参加までには至っていない。取り組み状況や課題等の報告、話し合いを行い、意見や要望を利用者の生活向上に向け活かしている。地域との基盤作り、活動や役割を積極的に行っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議への参加や生活介護相談員の訪問があり意見を聞く機会がある。また生活保護者の受け入れ等必要に応じた連絡連携を図っている。 | 運営推進会議や生活保護の受け入れ、事故報告、認定更新時などを通して、市と連絡をまめに取り、協力関係を築いている。事業所は「地域との関わり」が良好であるため、市からの信頼も厚い。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 開設当初から身体拘束はしておらず利用者が気の向くままに自由に生活ができるような支援を全職員が心掛けている。「身体拘束ゼロ宣言」もして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束の状況は見当たらない。身体拘束に対する研修も行われ、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。職員の役割分担を決め、細やかな内部連携で、見守りを続け状況把握に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員全員が何が虐待に当てはまるかをきちんと理解し、虐待が見過ごされないように常に注意を払っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度を利用している利用者があるため職員全員が理解できるように学び必要に応じて活用できるように努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居相談・訪問調査・契約時に契約内容の説明をわかりやすく行い利用者やご家族との関係づくりをすることで不安等を訪ね繰り返し説明することで納得・理解を図り改定時には変更内容を十分に説明し理解・納得を図っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時には担当者より日々の状況報告や相談等を行うほか。運営推進会議に参加していただき運営状況の報告や意見等をいただいている。 | 運営推進会議やカンファレンス、ケアプランの作成時、定期・随時の面談、行事等、できるだけ家族の参加を頂き、「ものが言いやすい関係作り」に努めている。フロアで面会に来た家族同士が情報交換している風景もみられる。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各職員に役割を持ってもらう中で運営者や幹部職員が定期的に面談を行い意見や提案を聞く機会を設け反映するよう努めている。 | 職員の声を活かせるよう、定期の面談や交流会(食事)を行い、職員の意見の把握に努めている。職員の申し出から研修会への参加が実現した。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員一人ひとりの状況把握に努め勤務調整や雇用形態の変更を適時面談を行い変更等している。また子育て中の職員が働きやすい環境作りに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員一人ひとりの状況に合わせて法人内部の研修を行ったり外部研修への参加を積極的に行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内で事例発表会など行うなど職員交流を行っているが定期的な交流までには至っていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 相談から利用に至るまで職員が入居者の自宅や施設等を訪問し本人と話ができる機会や関係を築き本人の声に耳を傾け受けとめる努力をしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 相談から利用に至るまでに職員が家族と連絡を密にし家族の意見や要望等に耳を傾け受けとめる努力をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族の意向を聞き職員全員で情報を集め何が必要なのかを見極め、ほかのサービスが必要なときはその旨を報告し対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一人ひとりに寄り添うケアを根本にし人生の先輩として敬う気持ちを忘れず出来ること出来ないことを共に支えあい喜怒哀楽を共感できる関係となるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会や電話等で状態・様子の報告を密に行い本人について意見交換を行いながら支えていくことで一緒に支えていく関係を築いていけるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の大切にしてきたなじみの人や場が継続していけるよう面会や外出等の支援を行っている。 | 昔の部下や馴染みの人との面会、美容室への外出、年賀状やお歳暮をおくる等、関係が途切れないよう支援を行っている。更に、職員は地域の情報収集や調整にあたり、訪問美容や福祉体験など新しい事にも積極的に取り組み、ケアに活かしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者一人一人の個性や相性を把握しそれを踏まえた上でトラブルなどが起こらないように職員同士声掛けを行うようにしている。また入居者同士が助け合ったり一緒に楽しめるよう職員が架け橋となり楽しめる時間を作れるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居された方でもご家族と手紙のやりとりをしたり入院のための退居となった場合はお見舞いに行くなどして付き合いを続けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者及びご家族の意向の把握に努め、実現できるよう努めている。生活歴や日々の会話の中から思いや意向を汲み取り把握するように努めている。 | 職員は日頃の関わりの中で、利用者の表情や動きを見守り、利用者ニーズの把握に努めている。家族からもケアプラン作成時や面会、電話などを通し、情報を収集している。必ず記録し、職員で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前、ご家族からの情報を含めご本人の生活歴や環境の情報収集を行うとともに、入居後もご家族やご本人から情報を得るようにしている。個人カルテの作成しスタッフ全員が把握できるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の記録や毎日行うケア確認の中でスタッフ全員がその日の過ごし方や日々変化する入居者の状態変化に対応するよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | スタッフ全員で常に情報を収集し毎日のケア確認をする際にスタッフ間で情報交換を行い現状に即した介護計画を作成するように努めている。またご家族との連絡を常に行うことでご家族の意向をお聞きして取り入れるようにしている。 | 職員は、業務報告書、毎日の生活記録などで、生活見直しノートを作成し、全員で捉えた情報を介護計画やモニタリングに活かしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日中・夜間の様子を個別に記録し情報交換をすると共にケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人の思いやご家族の思いを汲み取り常に寄り添った安心した暮らしができるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地元小学校の支援学級との交流や福祉体験の受け入れボランティアによる演奏会を行っている。食材を地元商店で購入したり防災訓練では地元の消防署に指導を受けている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人やご家族の希望によるかかりつけ医に受診し必要ならホームの職員が同行している。些細な事も医師に相談・報告しホームの協力医には24時間連絡・相談できる体制を整えている他、定期的に往診をしている。 | 月2回協力医の往診があり、24時間の相談体制ができている。協力医以外のかかりつけ医を持つ利用者は(現在2名)、職員が受診に同行している。情報は家族と共有してる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常の健康状態を確認している。不安なことなどいつでも相談を行えるような体制を整えている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関と連携を図り、情報の提供や早期退院できるように努めている。退院後も安心して生活が送れるよう入院中もこまめに様子を見に行くように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご本人やご家族の意向を踏まえ可能な場合には対応をホームとして行うように考えている。家族も食事介助等で介護に参加したり状態変化時には協力医・職員・ご家族で面談を行い、チームとして支援に取り組んでいる。 | 「重度化した場合における対応に関わる指針」を確認し、状況に応じ確認書を取り交わし、終末のあり方を共有し支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成したり、消防署での救命救急講習に参加をしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、消火・避難訓練を行っている。夜間の災害時には近隣住民の方々に協力の話し合い協力体制を築いている。備蓄品にや救助グッズの準備も進めている。 | 避難訓練は年2回行っている。食品、日用品の備蓄は完了。地域との関係は良好であり、住民に協力の声掛けをすることができる。家族から、災害時の避難場所を小学校から当施設への変更希望があるため、検討中である。 | 災害の取り組みは、運営推進会議を通して報告、検討を行って来ています。より良い防災対策を構築するために、早期の立ち上げも必要でしょう。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりを尊重し排泄時や入浴時の言葉かけや介助方法に配慮している。また日々のコミュニケーションの中でも誇りやプライバシーを損ねるようなことがないように配慮している。 | 一人ひとりの様子の把握や対応の仕方など、職員間のコミュニケーションを密にし、利用者の誇りやプライバシーを損ねることが無いよう気配りをしている。開示された書類の記録、扱ひも丁寧で、細やかな対処がうかがえる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりにあった声掛けをし本人の思いを表しやすくできるよう支援している。入居者の思いや希望を第一に考え自己決定が出来るように働きかけることを心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の本人のペースに合わせておあちそ生活の中から出来ることを出来るよう支援したり本人の希望する過ごし方で過ごせるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 個性を大切にしおしゃれが出来るように支援している。化粧道具があり、いつでも本人の希望するおしゃれが出来るよう努めている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 日常生活の中で食べたいものを把握し献立に活かしている。盛り付けや配膳など出来ることを職員と一緒にやっている。食事中も楽しい会話をするよう配慮している。 | 配膳や後片付け等、利用者も手伝っている。職員も一緒に食事をし、会話が弾む楽しい時間を過ごしている。利用者の状態に合わせた食事形態が供され、希望や好みも取り入れている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 多くの食材を使って栄養豊かな食事を作っている。その日の本人の体調に合わせてメニューを変更したり食事量を記録し食事量が少ないときには補食を行ったり本人が食べれるものを食べれるよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアや自分で行え方には義歯の洗浄を職員が行ったり本人の無理のないように支援をしている。月2回歯科往診を受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンやサインから無理ないように気持ち良く排泄できるように支援している。 | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、見守りの中でトイレサインを見逃さないように、その人に合った声がけを行い誘導している。用品は布パンツ、リハパンツ、パット類を昼間・夜間と使い分け、対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事やおやつに食物繊維の多いものを取り入れたり腹部マッサージや水分補給に気をつけている。主治医と相談し便秘薬の処方をお願いしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 本人の希望や体調に合わせて支援している。3日に1回は入れるように支援している。 | 毎日入浴できるよう準備されている。午前中の入浴者が多いが、希望や体調に合わせ、午後の入浴もできる。入浴嫌いの利用者には職員も一緒に入浴するなど工夫し、3日に1回は入ってもらうよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 午後からは落ち着いた生活が出来るように配慮し夜、安心して眠れるように心掛けている。温度や照明にも気を配り安眠できるようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | どんな薬を飲んでいるかすぐ分かるように内服薬説明書をファイリングしている。入居者の状態変化に合わせ薬の形状の変更や内服方法も状況に合わせて変更している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 掃除や洗濯干し等個々の能力を生かした生活の役割やDVDを見て楽しんだり充実した生活が出来るよう心掛けている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物や散歩など利用者に合わせ個々に支援している。本人の希望に合わせて外出したりと楽しみを持ってもらえるように支援している。 | 町内の活性化を図る「中野を考える会」に参加し、中野町フラワーロードの向日葵の種蒔きや花見、散歩等外出の機会を作り支援している。美容室、買い物など本人の希望に合わせた支援を行い、墓参りは家族の協力を得ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個々の状態に合わせて自分で管理できる場合には所持していただいている。買い物の際には状況に応じて自分で支払いが出来るように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族と相談の上、電話で話ができるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 常に清潔を心掛け、温度や湿度にも気を配っている。玄関や居室・階段等に季節の花を飾っている。イベント行事を行うことで季節感を感じていただけるように支援している。 | 季節の花や装飾(お正月、雛飾り等のタペストリー)のレイアウトに工夫があり、七夕飾りやお月見の準備を利用者と共に行う等、季節感を楽しめる気配りがある。前回期待された階段回りも絵を飾ったり、明かりを増やすなど工夫されていた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 和室や廊下にソファを置くなどしてその人に合った落ち着ける場所や安心できる場所を作れるように努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には本人・家族と相談し慣れ親しんだものを置いていただき少しでも安心した暮らしができるような居室作りに努めている。 | 利用者が落ち着いて過ごせるように配慮し、自宅での様子を踏まえてベット、布団が選択できる。今まで使用していた家具類の持込が可能であり、小物類も含め、居心地の良い居室作りをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者一人ひとりに合わせた生活が送れるように手すりやわかりやすい段差など設置することで安全な生活が送れるよう努めている。 | | |